

|                           |       |        |
|---------------------------|-------|--------|
| 10/1                      | 10/13 | 12/1   |
| 基本語句(単語・熟語・定理・法則等々) E 読解力 |       | センター対策 |
| 問題演習・単語帳・ノート整理・模試         |       | 過去問演習  |
| センターまで                    | 100日  | 50日    |



## これが後期からの合格パーフェクトプラン!

(2月本試験をターゲットにしています。公募推薦を受ける場合は、時期を2ヶ月～1.5ヶ月前倒して本来のスケジュールと並行させてください)

### 1. 夏休みの財産を活かして, "攻めの勉強"に徹する。

これから入試1ヶ月前までの大きな目標は, 夏休みにつくった財産 - 問題を読み解く力を強固なものにしていくことです。当然, その基礎となる単語・定理・法則などが夏休みでしっかり身につけていると想定してのことですが, そうはいつでも完全ではないでしょう。まだまだ不十分であることが多いので, これからもその知識量を増やす勉強は続けなければなりません。しかし, これからはそれに時間をかけるのではなく, 読解力をしっかり付けていくことに比重をかけるべきです。いわば, "攻めの勉強"に徹することです。

### 2. スランプの時は"守りの勉強"に切り替えよ。

やってもやってもなかなか捗らない時期があります。人によって現象は違うのですが, ある人は, 問題練習をしていても, 間違っばかり, わからないことだらけで, それでいて試験までの日数が気になりだして, 集中できなくなるようです。またある人は, 模試を受けてもなかなか思うように点が取れないので, 勉強にやる気を失ってしまいます。

そういうときは, 新しい問題に挑戦しても効果が出ません。不安になるだけです。思い切って, "攻めの勉強"から"守りの勉強"に切り替えてみてはどうでしょう。すなわち, 復習中心に切り替えることです。

往々にして, 成果が出ないのは蓄えた知識がうまく繋がっていないことが多く, やったつもり, 憶えたつもり, できたつもりになってどんどん前に前に進んでいることが原因のようです。こういうときは, モグラたたきの要領で, 一つひとつ丹念に再確認していくのが一番よいと言われます。

「え～っ, そんな時間ないよ～」と嘆くかもしれませんが, 一度やったところですから, 以前よりはるかに短時間でできるはず。また, それによって「オレって, できるようになってるじゃん」と進歩の跡が確認できて嬉しくなります。

### 3. 模試を受けまくって, 受験のセンスを磨け。

受験のプロであるものほど, シミュレーションを大事にします。答案を書く要領, 時間配分をいろいろ試して, 自分に一番あった方法を見つける努力も怠りません。

諸君達は, 高校1年生から何回となく模試を受けてきているのですが, 当時はまだプロ意識はなかったはず。恐らく本番を意識して受けた人はいないでしょう。でも, これからは違います。諸君はまさに"受験生"です。受験のプロになりつつあります。ならば, 模試を受けまくって, 受験センスを磨いてください。

それに, 模試の解答を読んで間違ったところを点検すると, その箇所が不思議に永く記憶に残ります。普段のやり方とは違った方法で攻めるのも刺激になっていいようです。

ただし, 決して, 結果は気にしないこと。まだまだ本番の力ではないのですから合格可能性は低く出て当たり前です。これから勉強を続けて, 場合によっては「ぐんぐん」予想をはるかに超えて伸びることだってあるのですから, 統計上の判定は気にしないことです。気持ちさえしっかりしていて, 前向きであれば大丈夫です。

### 4. 12月に入ったら, センターの過去問と赤本をやれ

1ヶ月前になったら, センター対策の意味も込めて, マークシート方式のトレーニングを始めるといいでしょう。マークの仕方, 時間配分の取り方, その傾向と対策など, すべてに慣れが必要だからです。

慣れるには, 実際にマークシートの問題に当たるしかありません。予想を込めた実践問題集を使うのはまだ先。まずは, センターの過去問を10年分ぐらいやってしまうのが最もいいと思います。なんせ, 国がつくるだけにセンターの間



|  |       |           |
|--|-------|-----------|
|  | 実戦演習  | 私大記述・二次対策 |
|  | 実戦問題集 | 過去問・赤本    |

20日

0日

題はそれなりに各教科の単元をかなり網羅し、そのポイントを確実にしておさえ出て出題されているから、今までの復習とチェックをするには最適の問題なのです。

このとき、やり方に工夫が要ります。代ゼミ・サテライン数学の堀川講師は、「縦型解答方式」を推奨しています。これは、10年分の過去問を、1番なら1番ばかり解答するやり方のことです。正確に言えば、同じ単元の問題を過去10年遡って解答するやり方なのです。多分、5年分ぐらいで飽きるだろうと、堀川講師は言っていますが、そうなったら大したもの。傾向を掴んだと同じことですから。また、解答時間も当然、早くなるし、まさに一石二鳥といえるでしょう。

なお、私立大がメインの人は、とかくセンター試験は受けてみるだけとか言ってなおざりな対策しかしないのですが、私立大もマークシート方式が多く、復習チェックという観点からしても、センター試験の問題は私立大受験にとってもちょうどよい教材です。どうせセンター利用で高得点は無理だからとか、一般記述に賭けるとか言って、センター試験をいい加減にしてしまうのは、バッターがバットを持たないで打席に入るようなもの。一般試験に向けてもよい教材なのに、それをみすみす捨ててしまうのはもったいない。センター利用試験のことも考えると、決して損なことではありません。

それから、私立大受験を控えている人は、そろそろ赤本演習をはじめよう。やり方は出題形式が似ているのならセンター過去問と同じ。そうでないなら、出題単元を最初に分類し、それから同じ単元を10年分ぐらい(7,8年でもよい)通してやることです。ただし、あくまでもセンター試験の過去問を中心にして。(決して、四六時中、センター過去問や赤本ばかりしてたらいいと言っているわけではありません。基本の勉強も続けながらと言う意味です。)



## 5. 1月からは実践演習

1月にはいと、センターまで19日。この緊張感は今までにない集中力を生みます。まさに試験本番に臨む気構えができつつあります。このときこそ、頭に当日のシミュレーションをたたき込むことです。そっくりな試験問題集を買っておき(早めに購入しておかないと売り切れたらありません)、本番にあわせて、時間配分や、ペース配分を体に覚え込ませることで。

ただし、解答する時間は、本番の80%以内に設定すること。残された時間を見直しのために使いたいから。問題を解き終えて、見直しをやるのとやらないのとでは結果が大きく違ってきます。そして、20%の時間の中で正解とてらし、間違ったところは暗記してしまおう。できなかったからと言って、気に病む必要はありません。今憶えてミスをなくしたのだから、本番はもっと良い点が取れるはず。それぐらい、どんどん前向きに貪欲に。私立大受験を控えている人も、21日まではセンター対策一本で。22日から一気に各校別赤本演習に切り替えればよい。

## 6. 試験直前1ヶ月前は6時起き。ペースをさらにあげて。

普段からできている人はいいですが、入試直前は夜型の生活から朝方の生活に切り替えるべくよくいわれます。これは、体調、脳の働きを入試本番にあわせるためです。しかし、朝方だとは言っても、7時や8時に起きても意味がありません。遅くとも6時には起きるようにすることです。

なぜなら、ほとんどの大学では、入試開始時刻を9時にしています。人間の頭は目覚めてから完全に働き始めるのに3時間がかかります。だから、9時にあわせるためには、朝6時には起床している必要があります。これが、8時起きでは、試験が始まっても、当人は気づかないが頭は寝ぼけ状態のままです。

夜型から朝方に切り替えた当初は苦しい。体も何となくだるいし、気が乗らなく、集中できていないように思っています。しかし、ここを乗り越えれば、受験のプロ。達人の領域。その後は、もっとペースを速めよう。

逆転は、この入試直前の時期をいかに使いこなすかで決まります。合格可能性も偏差値もダメだと思われていた人が合格ラインを突破する力を蓄えるのはこの時期なのです。だから、いつもより勉強時間を増やし、勢いを付けることです。実際、以前マゴマゴして時間がかかっていた問題も、かなり早く解けるようになっていくから、自分の進歩に自信も付いてきますよ。

